

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 則松 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

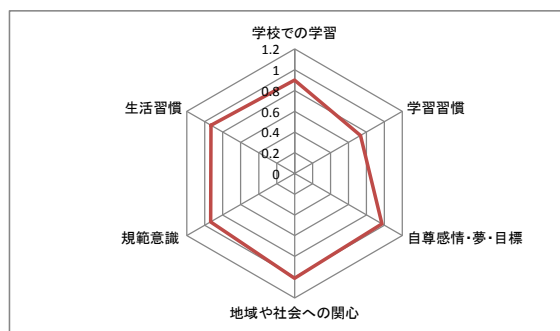
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っていた。話す聞く能力に関する問題はできていたが、書く能力に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	慣用句を適切に使う問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く問題の正答率が低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っていた。記述式の問題の正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話す・聞く能力に関する問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題の正答率が低かった。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を上回っていた。量と測定の問題の正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合を比べる問題での正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	百分率を求める問題で正答率が低かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	全体的に下回っていた。数量関係での問題の正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	数と計算領域での問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	グラフを関連付け、記述する問題での正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に下回っていた。科学的な思考・表現の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	自然事象に関する関心意欲の問題での正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問題での正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
学習中、「友達との話し合い」や「授業の振り返り」をよく行っていたと答える児童が多く、学校での学習に真面目に取り組んでいることが分かる。 宿題を毎日する児童は多いが、自分で計画を立て1日当たり1時間以上勉強をしている児童は少ない。 このようなことから、学校での学習態度は、向上しているが、学習習慣に課題があるといえる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 全学年で、どの教科においても、友達とともに学び合う姿勢、特に、話し合う姿勢を今後も育てていく。
- 課題のある学習内容については、朝自習やチャレンジタイムの時間を使って継続的に取り組んでいく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 読書のよさや学習習慣の大切さを通信や懇談会で保護者にも発信する。
- 今後も家庭学習強化週間を設け、家庭と連携して家庭学習の定着を目指す。